

日本共産党がいま元気 夏の参院選勝利へ全力投球



20日、川内たかし参院選滋賀選挙区予定候補を先頭に、守山市内で街頭から訴えました。

民主・自民両党との違い鮮明

鳩山首相、小沢幹事長、ともに政治と金をめぐる問題で自浄能力がありません。「民主党に期待していたのに…」と声が少なくありません。それを如実にあらわしているのが内閣の支持率の急落。自民も決定的な追及ができません。こうした政党と大きく違いをみせ、いま注目されるのが日本共産党です。13日から16日まで4日間、伊豆の学習会館で全国から1000名近い代議員が集まり、第25回党大会が開かれました。大会では、今日の日本と世界の現状を分析し、どうすれば国民の暮らしを守ることができるのか、打開の方向を議論し、全国各地の実践のなかで、その道筋を明らかにしました。政権は交代したものの「迷走」しているのは、平和と暮らしを脅かしてきた、軍事同盟優先、大企業・財界優先という古い政治の枠組みから抜け出せないからです。この点を明確にしているのが日本共産党。だからいま、これまで自民党の支持基盤だったJAや企業・団体から、日本共産党に大いなる関心と注目が寄せられ、共同の取組がひろがっています。今夏の参院選での躍進が政治の中身を大きく変えていくこととなります。

(株)宇野本家 市の買い取り価格明らかに…



建物 1366万6000円
(本家・蔵等6棟)
土地 1億2901万6000円
(面積 1139㎡)

市の説明によると、土地取得価格については不動産鑑定士2者に鑑定評価を行い、その平均単価から坪39万1700円とし、必要としない建物の解体費用を差し引いた額として、1億2900万円余に算定。建物の取得価格については、町家を活用した歴史文化拠点(仮)守山を知らう館を整備するのに必要な建物、本家・蔵など6棟について、この建物を新たに建てた場合の費用を算定し、推定再構築費を1億3666万円余と判断し、それを総合的に判断した

中心市街地活性化の核となるのか？
いま優先すべきは市民の暮らし守ること…

「残存価格率」10%を乗じた額、1366万6000円とした、とのこと。今年度から、約60億円をかけて取り組まれている中心市街地活性化計画。厳しい経済情勢の下で、市民の暮らしをどう守っていくのか、文字通り、地方自治体のあり方が問われている時に、市民からも物議をよんでいる今回の「宇野本家」の買収が、市政のあり方としていいのかどうか、市民の理解が得られるのか、また、中心市街地活性化にどう役立つのかどうか、問われています。

守山市が、歴史文化拠点「(仮)守山を知らう館」として、買い取った「宇野本家」。昨年12月議会では「本当にいま必要なことなのか」「なぜ、宇野本家なのか」など、物議を呼びましたが、市は議会終了直後の12月21日に契約。その買い取り価格は、土地・建物あわせて、1億4268万2千円。深刻な経済と地方財政危機のなかで、市民の暮らしと福祉を守ることを最優先にする政治が求められています。



守山川で魚が大量変死

守山川の吉身1丁目地先から守山2丁目地先にかけて大量の魚が変死している、と18日、市民から通報を受け、小牧議員がすぐに現地調査。写真(上)で記録するとともに市に対応を求めました。16日にこの付近の川の汚濁が確認されており、翌17日には魚の変死を発見したと通報があったとのこと。早急な原因究明と対策が求められます。

日本共産党

守山民報

守山市議会議員

こまき一美

TEL・FAX 582-3785
http://komaki.jcp-web.net/

党守山市くらし対策責任者

まつば栄太郎

TEL 584-3077
FAX 584-3466

日本共産党守山市委員会発行 467号 2010・1・20 TEL 583-8552 FAX 583-1098

毎週木曜日 午後5:45~6:45 守山駅で街頭宣伝しています。